

【京都府立医科大学】京都「南北一体」データ駆動型-臨床研究ハイウェイ構想（K-DASH）

～高度医療DXによる研究力強化と持続可能な経営基盤の確立～

【現状の課題と改革ビジョン】

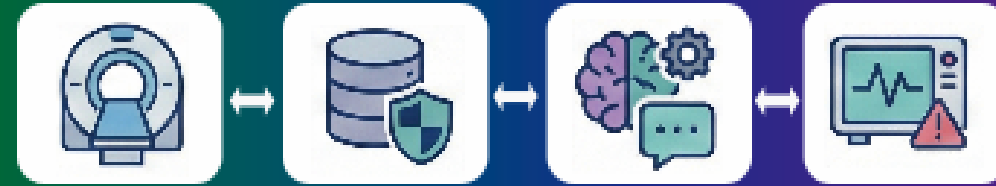
現状の課題

医療の南北格差・医師不足（特に府北部）
地方勤務が研究・研鑽の「障壁」
大学病院の経営基盤の不安定性
医療資源・教育機会の偏在

改革ビジョン

「地方勤務-最先端研究のチャンス」へ転換
地理的距離を「データの質」と「DX」で克服
経営基盤の安定・循環型キャリア形成の実現

<K-DASH 臨床研究ハイウェイ：データと知の循環基盤>



- ①高性能CT装置（本院導入）
超高精細画像
データエンジン
微細血管・物質弁別
- ②Kyoto-EMR Data Bank（SIMPRESEARCH®）
匿名化RWD基盤
他施設データを構造化・共有財産化
- ③ローカルLLM & AIエージェント
AI業務支援（タスクシフト）
研究データ探索補助
- ④早期警戒システム（EWS）
急変予兆検知
病床管理最適化
医療安全向上

【目指す成果と持続性】

目指す成果（KPI）

増収減益構造からの脱却
臨床研究の基盤整備
医療の質：高度診断支援の普及
循環型キャリア形成：論文・学位取得支援
働き方改革：AI活用で研究/教育時間を創出

持続可能な経営基盤確立

病院収益性の向上による自律運営
医師の働き方改革推進・臨床研究力強化

研究DX基盤（SIMPRESEARCH） + AI病床管理（MEDISINUS/EWS）

医師の「時間」を創出

【研究】超高度臨床研究の創出

論文数・質の飛躍的向上/外部資金獲得

【教育】次世代人材の育成

データサイエンスに強い医師/リサーチマインドの醸成

【地域】地域医療への貢献

専門医の派遣・交流/地域連携の円滑化

【北ハブ】

北部医療センター（丹後・与謝野町）

役割：地域医療の「最先端リサーチラボ」化
・地域データの収集・構造化（K-DASHノード）
・デジタル・ラボ：本院高性能CT利用データへの遠隔解析環境
・ローカルLLMによる診療・研究支援
・遠隔指導受け入れによるキャリア形成



【南ハブ】

附属病院 本院（京都市）

役割：高度機能先鋭化と「司令塔」機能
・高性能CT導入による高度診断・データバンク構築
・高度解析アルゴリズム開発と遠隔配信
・EWSによる重症患者管理・資源集中
・タスクシフトによる教育研究への資産シフト

←（南から北）遠隔画像診断支援，オンライン指導，高度解析環境提供

結論：K-DASHにより，場所を問わず世界水準の医療・研究・教育を享受できる体制を構築し，持続可能な経営基盤を確立し，地域医療と大学病院の競争力の強化を同時に実現する。